

学校法人 村田学園理事長 亀田 光昭

学校法人村田学園（旧村田簿記学校）は、ここに百周年を迎えることができました。明治四二年（一九〇九）、創立者村田謙造先生は、神田一ツ橋通町にあった私立春育小学校の校舎を借用して、学園の礎となった「銀行会社事務員養成所」を開き、大正一〇年（一九二一）には神田区仲猿楽町（現千代田区神田神保町）に新築移転し、校名を「村田簿記学校」と改称しました。

村田謙造先生は、国家の要も、企業の要も、また一家庭の要にいたるまで、その基幹をなすものは健全なる計画のもとで行われる経理処理であることに着目し、経理教育が国民常識として普及されることを終生の仕事として実践されました。

爾来百年、この創立の理念は、創立者の長女である村田照子先生という良き協力者であり、かつ有能な指導者に引き継がれ、そのもとで育まれた多くの教職員の手によって、今日まで守り育てられてまいりました。

この創立理念をもとに本学園は現在、「村田簿記学校」を継承・改革し、時代の求める人材の育成に努める東京経営短期大学と、村田女子商業学校を改組発展させてキャリアデザインの構築とサイエンスレディ（論理的思考のできる女性）の育成を目指す村田女子高等学校並びに村田学園小石川女子中学校の、三つの学校を擁しております。

創立者村田謙造先生、その後継者で良き理解者でもあった村田照子先生は、社会に貢献できる人材の育成を教育目標として掲げてこられました。それが具現化されたものが、珠算能力検定試験を初めとする多くの能力検定制度であります。その普及は、お二人の強い信念と、その人格・人柄の魅力に集って来た多くの教職員の地道な活動があったればこそと言えましょう。そこには、教育目標と学生・生徒一人ひとりの夢が合致するところこそが教育の究極の使命であるとの強い信念がありました。

本学園の校舎は、創立以来長年神田神保町と小石川区久堅町に位置しておりました。そして、関東大震災と第二次世界大戦において、共に火災焼失という試練の場に立たされながらも、不屈の精神をもってその苦難を乗り越え、いずれも早期の再建を果たしました。百年を迎えた今日、本学園が有する校舎は、千代田区神田神保町、文京区本駒込、そして市川市二俣の三つであります。村田照子先生は特に後者二つの建設にあたっては、それがそこに学ぶ学生・生徒の夢の実現の場所でなければならぬとの思いから、設計の段階から積極的にかかわられました。今日これらの校舎を巡る時、誰もがそこに込められた先生の思いに気づかれることと思います。

これまでの百年、本学園で学び巣立っていった同窓生は約三二万人、それぞれの時代が求める実学をもって社会に貢献し、多方面にわたり活躍しております。私共教職員は学園の創立の理念を正しく継承し、在学生並びにこれから本学園を目指してくる学生・生徒達に対し、常に時代を見すえた教育の実践に邁進し、一人ひとりの夢の実現に引き続き精進してまいる所存であります。

(かめだ・みつあき)



## 次の百年も 栄光ある展開を祈念します 川北 博

学校法人村田学園(元理事)／日本公認会計士協会相談役(元会長)  
静岡県立大学大学院客員教授／会計学博士

村田学園は、村田謙造先生が、明治四十二年一月三日に「銀行会社事務員養成所」を神田・一ツ橋通町に設立されてから、明治・大正・昭和・平成と四代を経て本年に至り、創立百周年を迎えられたことは、正に世紀の慶事というべく、心からお祝い申し上げます。

わが国における新しい自由市場経済を形成する近代資本主義経済社会は、明治期においてその基礎が培われました。その形成に必須の簿記・会計に関する知識や素養は明治初期にアラン・シャンドや福沢諭吉によって伝えられていましたが、その後その継続的教育の場を村田学園が創設され、今日まで百年の長きにわたり、その伝統や使命を語り伝えてこられ、大きな社会的評価を受けてきました。

その間、昭和五〇年に立派な学園の基礎を創成された村田謙造先生が逝去され、村田学園理事長、村田簿記学校校長、村田女子商業高等学校校長の職は村田照子先生に承継されました。

こうして平成元年一〇月には、創立八〇周年記念式典が日本武道館において開催され、平成四年には、村田学園「東京経

営短期大学(経営情報学科)が開学されましたが、現在では、この短期大学と村田女子高等学校、村田学園小石川女子中学校をもって学校法人が経営され、伝統的存在であった村田簿記学校は、その建学の精神と学校の理念とを東京経営短期大学が継承することとされました。

平成一八年六月一九日、御尊父村田謙造先生のあとを継承し、村田学園の最高責任者としてその経営に苦勞された村田照子先生が逝去されました。

私は平成五年に、長く理事・評議員の任にあった恩師井上達雄先生(元中央大学学長)のお世話により学園の理事・評議員に就任し、平成二〇年まで在任しました。私の理事就任時代は、正に日本の少子化時代が進み、平成時代に入ってから難局を乗り越えることは至難でした。

しかしそのなかにあつて、現在の理事長はじめ学校法人経営に携わる人達が、正に献身的努力を続けてこられたことに感謝し、次の百年への村田学園の栄光ある展開をお祈りしている昨今であります。

(かわきた・ひろし)



## 建学の精神を活かし 新たな出発を 酒井 淳

学校法人村田学園理事／財団法人東京都私学財団理事長  
学校法人東京女子学院理事長／東京女子学院中学高等学校校長

学校法人村田学園創立百周年、おめでとうございます。創立者村田謙造先生、その理念を引き継がれた村田照子先生をはじめ、学園にご支援ご協力賜った関係各位、陰に陽に学園を支えてくださっている方々に、深甚なる敬意を表します。

簿記を国民常識として広めることを目的に「有算者勝」「算数無私情」を教育理念として、創立者は、常に数の觀念に目覚めるよう強調され、一日の行動は、すべて時間で制限されている事実をあげられました。また、人生の出来事を具体的に表すならば、その大小、軽重、長短、高低などを数の力を借りれば、誰でも理解できるのではないかと、いかなる事実にしても、誠意をもってそれに当たるものは、重要な数字的基礎の下に、あらゆる計画、施設、観察等、いずれも数字の力にまたなければ十分な成果を得ることはできないと示唆されました。社会が進めば進むほど、ますます数字が重要であると主張されています。また、創立者は、「四ツ珠ソロバン」「速算」「暗算」の普及、日本商工会議所主催珠算能力検定試験を施行するなど、常に先導的志向を持って、社会に貢献されました。

私立学校は、他の国公私立では学べない、特色ある教育が実践されているからこそ、存在価値があります。村田学園は、創

立者の教育理念を教育の現場に活かしています。

顧みると、創立者村田謙造先生並びに村田照子先生との出会いは、昭和三六年当時、東京の女子の私立高等学校長の会「東京女子教育懇話会」だったと記憶しております。たまたまこの会の事務局のお手伝いをしていた時代です。ご承知のとおり、村田謙造先生は、剣道に造詣深く、古武士の風格が漂い、背筋を伸ばし、常に姿勢が良く、その上お洒落でセンスがよくダンディでいらつしやいました。晩年は聖路加病院に入院され、何度かお見舞に伺いました。村田照子先生は、若い時から白髪で、言語明瞭、単刀直入、理路整然とした発言を常にされました。また、私立学校の経営に携わる若手が集い、学校運営に関しての勉強会を先生のご自宅や理事長室をお借りして、店屋物を食べながら学んだことが昨日のように思い出されます。

目の中に入れても痛くないほど村田学園を愛され、全身全霊を教育界に捧げられた村田謙造、村田照子両先生は、私学人の誇りであり、宝であります。

亀田光昭理事長を軸に、村田学園の創立理念、建学精神を活かし、新たな出発を機に、及ばずながら微力を尽す所存です。

(さかい・ひろし)